

# 神経指向性アストロウイルスの遺伝子が検出された 牛の非化膿性脳炎

原田奈美香<sup>1)</sup> 茂木麻奈美<sup>1)</sup> 高梨資子<sup>1)</sup> 松浦裕一<sup>2)</sup>  
芝原友幸<sup>2),3)</sup> 萩原克郎<sup>4)</sup> 瀧澤勝敏<sup>1)†</sup>



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/5/76\\_e122/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/5/76_e122/_article/-char/ja)

- 1) 群馬県家畜衛生研究所 (〒371-0103 前橋市富士見町小暮 2425-3)
- 2) 国研農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 (〒305-0856 つくば市観音台 3-1-5)
- 3) 大阪公立大学大学院獣医学研究科 (〒598-8531 泉佐野市りんくう往来北 1-58)
- 4) 酪農学園大学獣医学群獣医学類 (〒069-8501 江別市文京台緑町 582)

(2022年8月30日受付・2022年12月24日受理・2023年5月31日公開)

## 要 約

群馬県内の酪農場において、非化膿性脳炎を呈した牛の脳からアストロウイルス (AstV) の特異遺伝子断片が検出された。当該牛は横臥し泌乳量減少、食欲不振となり、予後不良と診断された。剖検では、著変は認めず、病理組織検査では、大脳、間脳、中脳、橋及び延髄に囲管性細胞浸潤、グリア集簇が認められ、それらの変化は脳幹でより重度であった。病原検索では、大脳及び主要臓器から有意な細菌は分離されず、他のウイルスは不検出であった。検出された AstV 遺伝子断片の塩基配列は、国内初発例の神経指向性 AstV の非構造蛋白質領域と 95% 一致した。本症例の脳炎に AstV が関与した可能性があり、国内 2 例目の報告であると考えられる。本研究により、国内の複数の地域における神経指向性 AstV の存在が示唆され、国内に AstV がまん延している可能性が推察された。

——キーワード：アストロウイルス，牛，非化膿性脳炎。

-----日獣会誌 76, e122～e129 (2023)